

【全体概要】

福岡県の夏秋なすは、夏期の複合品目の一つとして導入が進められているが、高齢化と労力不足により、省力化技術が求められている。また、施設栽培なすについては、栽培が長期にわたるため、草勢維持管理と出荷の安定が求められている。そこで、緩効性肥料を用いた施肥体系や整枝方法の改善等の省力技術の導入による、福岡県産なすの生産力の向上を図る。

新品種・新技術等の概要

○品種「筑陽」における「一芽どり整枝法」と「施肥体系」の実証(R2)

「筑陽」における「一芽どり整枝法」は、樹勢を適正に維持でき、緩効性肥料を用いた「施肥体系」は、追肥作業の省力化を図れた。



「一芽どり整枝法」を導入した生産体系

○県内8カ所での栽培実証試験(R3)

県内7カ所において基肥一発肥料の施肥体系試験、1カ所にて日射比例式かん水制御を用いた実証試験を実施し、作業の省力化や樹勢の安定が図れた。

主な取組内容

※R3実績

【実証ほ設置】(8普及センター、8カ所)

【事業検討会・設計・成績検討会】(計3回)

実証ほの設計、成績を検討。

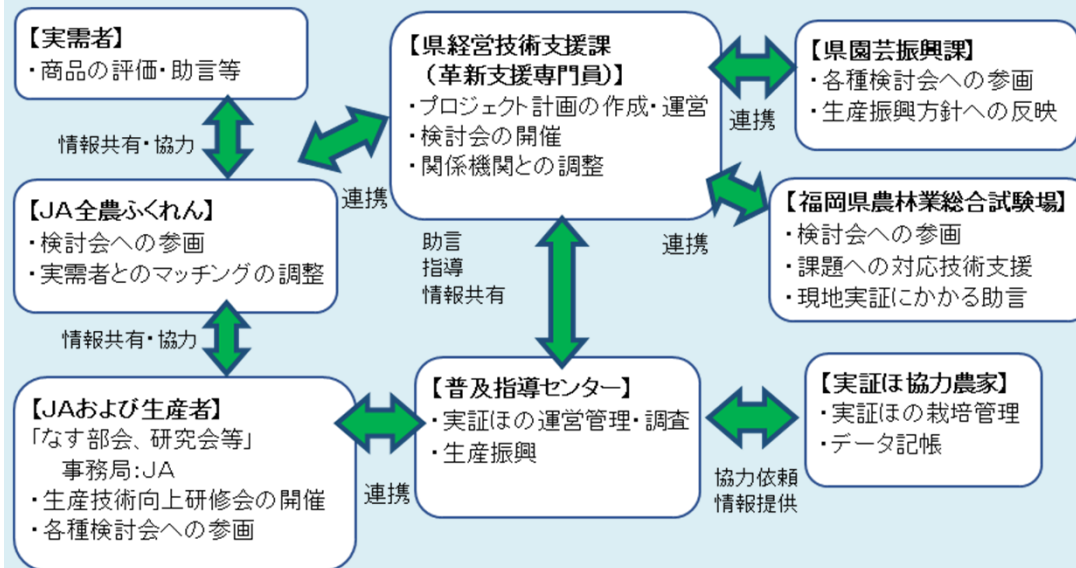
【プロジェクト会議、現地検討会】(6月～3月、3回)

実証ほ場の実施状況の確認および現地検討会を開催。

【実需者との意見交換会】(7月、12月、2回)

・生産販売検討会にて、産地における生産情報の提供と実需者の販売ニーズの調査を実施。

実施体制図



課題と今後の対応

【栽培技術の確立】

- ・緩効性肥料を用いた施肥体系の広域普及に向けた継続的な実証。
- ・気象条件に左右されない安定した樹勢管理の検討。

【産地の生産振興】

- ・栽培手引きをとりまとめ、新規就農者の育成や収量向上等産地強化を図る。